

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人中国学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
現代生活学部	人間栄養学科	夜・通信			85	85	13	
子ども学部	子ども学科	夜・通信			111	111	13	
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信			113	113	13	
(備考) ・子ども学部子ども学科3～4年は旧課程：3年65単位、4年57単位 ・国際教養学部国際教養学科3～4年は旧課程：19単位								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにおいて公表 http://syllabus-c.jc.jp/koukai/ にて、入学年次を選択し、次ページの担当教員の実務経験の有無欄で「有」を選択して検索する。(単位数付一覧は同ページバナーでpopupされるページ内で「実務経験のある教員等による授業科目一覧表」を選択。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人中国学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html 大学要覧（大学事務局に配置）

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	H30. 8. 7～ R3. 8. 6	組織運営体制への チェック機能
非常勤	元公立高校校長	R2. 4. 28～ R5. 4. 27	組織運営体制への チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人中国学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では全ての授業科目についてシラバスを作成し、学生への利便性を考慮し、シラバスのWeb化を実施している。 シラバスの内容は、「授業の概要」「到達目標」「年間授業計画」「評価の方法」「受講の心得」「授業外学修」「使用テキスト」「参考書」から構成される。 シラバスの作成にあたっては、「シラバス作成の手引き」を全教員へ配付し、記載内容・記載方法を詳細に示している。各教員より提出されたシラバス原稿は、シラバス整備のガイドラインに基づき、各学部・研究科からなる教育課程委員会及び教務課において点検を行い、記載上の留意事項に照らして不備や欠陥が認められる場合は、修正を依頼する。 また、学期途中で修正事項があった場合は、教員からの連絡に基づき教務課で修正すると共に学生へ周知する。 シラバスの作成・公表時期については、例年下記の日程で実施している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバス入稿期間：12月初旬～2月末 2. シラバス点検期間：3月初旬～3月中旬 3. シラバス修正期間：3月中旬～3月下旬 4. シラバス公開：4月1日 	
授業計画書の公表方法	<p>本学ホームページにおいて公表 http://syllabus-cjc.jp/koukai/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p> <p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 授業科目の学修成果の評価方法については、授業担当教員が科目(教養、専門、資格関連)の特性と、授業形態(講義、演習、実験、実習、実技)に応じ、適切な評価方法(筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、授業参加度等)を組み合わせ、総合的に判断している。この成績評価の方法・基準は、シラバスに具体的に明記し、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位認定又は履修の認定を行っている。 また、各教員がそれぞれに実施している指導と評価等については、常に学部内会議等で相互に意見交換をし、きめ細かく効果的な指導と適切な評価について検討することで、学修成果が達成可能、かつ一定期間内で獲得可能なものになっている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価は、A～D及びFの5段階とし、D以上を認定としている。成績と評価基準は下表のとおりである。また、教育の質を保証するために、GPA (Grade Point Average) 制度を導入している。この制度の導入で、学生は自分の成績を数値で客観的に把握し、次の学期の履修計画に役立てるなどの活用が可能である。

成績と評価基準

成 績	評 価
100－90 点	A
89－80 点	B
79－70 点	C
69－60 点	D
59－ 0 点	F (不合格)

K：欠席 N：受験資格なし

GPA の数値の算出方法については、下記の方法により算出しており、この算出方法は学生便覧に記載し学生に周知している。

<GPA 算出方法>

$4.0 \times A$ 評価の単位数 + $3.0 \times B$ 評価の単位数 + $2.0 \times C$ 評価の単位数 + $1.0 \times D$ 評価の単位数

GPA = $\frac{\text{総履修登録単位数 (F 評価、K 評価、N 評価の単位数を含む)}}{\text{総履修登録単位数}}$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

本学ホームページにおいて公表
https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) を定め、各学部で点検し、変更する場合は教育課程委員会及び教授会で審議・決定することとしている。

学内においては、入学式直後に各学部で実施する新入生オリエンテーションで、保護者同席のもとでディプロマポリシーを示して、その内容を説明している。さらに、学生にはその後のオリエンテーション期間中に十分な説明を行っている。

卒業認定は、卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) 及び修得単位数を踏まえて行っている。

各学部の卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) は、下記のとおりである。

【現代生活学部人間栄養学科】

人の栄養に関する必要な幅広い知識と技術を身につけ、人間性豊かな人格を兼ね備えけるとともに、人々の健康の保持・増進に貢献できる人材を養成します。所定の単位を修得した学生に学士 (栄養学) を授与します。

<知識・理解>

栄養に関する専門的知識を有し、技量等を統合して健康の維持増進や疾病予防・治療に応用できる。

<思考・問題解決能力>

全人的な観点から対象者を理解し、科学的根拠に基づいた論理的思考および判断ができ、ライフステージの特性に応じた健康の維持増進、疾病予防・治療に貢献できる。

<技能>

対象者の栄養状態を的確に評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる。

<態度>

職業人としての倫理を身につけ、人権、人格を尊重し、行動することができる。また、豊かな人間性と社会性を持ち合わせ、信頼される管理栄養士として社会に貢献する志と自己研鑽する意識を持つことができる。

【子ども学部子ども学科】

教学の理念のもと、「知識・情操・意思」をバランスよく備え、豊かな人間性と専門的能力を身につけた保育者・教育者を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（子ども学）を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」から成ります。

<知識・理解>

保育や教育等に関する幅広い教養と専門的知識を修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。

<思考・問題解決能力>

子どもに関わる様々な場面から、主体的に問題を見だし、問題解決の方法を探究し、計画を立てて実践し、振り返って次の問題の発見・解決につなげていくことができる。

<技能>

保育や教育等に関する専門的スキルを修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。

<態度>

子どもに関わる様々な場面において、子どもの最善の利益を実現するために、主体性を持って多様な人々と協働して問題解決を図ろうとする。

【国際教養学部国際教養学科】

地域に根差したグローバル人材として、語学力、知識・技能を身につけ、健全で優れた人格と国際感覚を養います。所定の単位を修得した学生に学士（国際教養）を授与します。

<知識・理解>

日本と世界の文化や歴史に関する知識を有し、自国・他国の行動様式、考え方の基盤となる文化的背景を理解している。そして、英語の言語学的知識を有し、状況に応じた言語の使用方法を理解している。また、ビジネス分野に関する基礎的知識を有する。

<思考・問題解決能力>

地域の課題をグローバルな視点から考え、解決できる。

<技能>

日本語もしくは英語を用い、様々な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとり、また自分の考えをプレゼンテーションすることができる。

<態度>

多様な文化を理解し、尊重することができる。また、他者と協力して課題に取り組み、その解決に向けて努力を継続できる。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

本学ホームページにおいて公表
<https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab1>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	中国学園大学
設置者名	学校法人中国学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html *5. 財務の状況に掲載
収支計算書又は損益計算書	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html *5. 財務の状況に掲載
財産目録	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html *5. 財務の状況に掲載
事業報告書	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html *4. 事業の状況に掲載
監事による監査報告(書)	https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html *5. 財務の状況に掲載

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 現代生活学部人間栄養学科
教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/gakusoku_01_2020.pdf ）
<p>(概要)</p> <p>現代生活学部は、現代および将来の生活に必要な知識と技術を創造し、これを社会へ提供しながら、自主性に富む人格を育成することを目的とする。</p> <p>人間栄養学科は、人の栄養に関わる新しい知識と技能を創造し、人の健全な食生活について企画・管理・指導できる管理栄養士を養成することを目標とする。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3 ）
<p>(概要)</p> <p>人の栄養に関する必要な幅広い知識と技術を身につけ、人間性豊かな人格を兼ね備えるとともに、人々の健康の保持・増進に貢献できる人材を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（栄養学）を授与します。</p> <p><知識・理解></p> <p>栄養に関する専門的知識を有し、技量等を統合して健康の維持増進や疾病予防・治療に応用できる。</p> <p><思考・問題解決能力></p> <p>全人的な観点から対象者を理解し、科学的根拠に基づいた論理的思考および判断ができ、ライフステージの特性に応じた健康の維持増進、疾病予防・治療に貢献できる。</p> <p><技能></p> <p>対象者の栄養状態を的確に評価することができ、他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる。</p> <p><態度></p> <p>職業人としての倫理を身につけ、人権、人格を尊重し、行動することができる。また、豊かな人間性と社会性を持ち合わせ、信頼される管理栄養士として社会に貢献する志と自己研鑽する意識を持つことができる。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3 ）
<p>(概要)</p> <p>○教養教育科目に加え、専門教育科目を「専門基礎分野」、「専門分野」、「専門関連分野」の 3 区分に分けて設置しています。教養教育科目では、学びの基礎となる知識や学修方法を修得します。専門教育科目では、栄養士免許と管理栄養士国家試験受験資格取得に必要な科目を修得し、健康に関して科学的根拠に基づいた提案ができる管理栄養士を育成します。</p> <p>○講義と実習科目を段階的に組み合わせ、管理栄養士として必要な知識と技能を体系的に修得します。また、臨地実習では、病院・福祉施設、保健所・保健センター、学校・給食センターなどの実習先を配置することにより、多岐にわたる管理栄養士へのニーズに応えられる適応力と実践的な視点・態度を身につけます。</p> <p>○4年間の専門科目学修の総まとめを行い、管理栄養士としての基盤を完成させます。また、知識と実践力の集大成として卒業研究を行います。</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○栄養学の専門家である管理栄養士を目指す人 ○食べ物や食文化、健康について興味や関心がある人 ○食を通じて人や地域とふれあい、人生を豊かにしたいと希望している人 ○栄養学を広く学びそれにより自己実現を志向している人

<p>学部等名 子ども学部子ども学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/gakusoku_01_2020.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>子ども学部は、子ども学の研究を通して現代社会における子ども支援に多面的に貢献できる人材の育成を目的とする。</p> <p>子ども学科は、地域との連携の中で深い子ども理解を基礎として子どもの文化・社会の向上と子どもの保育・教育の発展に資する実践的能力を涵養することを目標とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <p>教学の理念のもと、「知識・情操・意思」をバランスよく備え、豊かな人間性と専門的能力を身につけた保育者・教育者を養成します。所定の単位を修得した学生に学士（子ども学）を授与します。学士力とは、「知識・理解」「思考・問題解決能力」「技能」「態度」から成ります。</p> <p><知識・理解></p> <p>保育や教育等に関する幅広い教養と専門的知識を修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。</p> <p><思考・問題解決能力></p> <p>子どもに関わる様々な場面から、主体的に問題を見だし、問題解決の方法を探究し、計画を立てて実践し、振り返って次の問題の発見・解決につなげていくことができる。</p> <p><技能></p> <p>保育や教育等に関する専門的スキルを修得し、子どもに関わる様々な場面で主体的に活用することができる。</p> <p><態度></p> <p>子どもに関わる様々な場面において、子どもの最善の利益を実現するために、主体性を持って多様な人々と協働して問題解決を図ろうとする。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教学の理念のもと、ディプロマポリシーに掲げた学士力を養成するために、教養教育科目及び専門教育科目により教育課程を編成しています。 ○主に<知識・理解>に係る学修を実施するため、教養教育科目には、「人間と生活」「人間と科学」「生活と情報」「外国語」「体育」「初年次教育」の6教育内容にわたる科目を設置し、幅広い知識と深い教養を身につけます。また、専門教育科目の教育内容「子どもの理解」には、子どもを理解する基盤となる理論的知識を修得できる授業科目を設置しています。

<p>○主に<思考・問題解決能力>に係る学修を実施するため、専門教育科目の教育内容「子ども学の探求」には、子ども学に関する授業科目を全ての学年で設置し、卒業研究に結実させます。3年次以降の科目は卒業必修科目として実施します。</p> <p>○主に<技能><態度>に係る学修を実施するため、専門教育科目の教育内容「学士力の養成」には、全教育課程を通して修得していく学士力の基礎と、専門分野に特化した具体的な学士力を身につけるための授業科目を実施します。また、専門教育科目の教育内容「子どもと教科及び基礎技能」「子どもの教育」「子どもの生活支援」には、演習を中心に保育や教育等に関する実践力を身につけるための授業科目を設置しています。</p> <p>○講義、演習、実習形式を適切に組み合わせて授業を実施します。グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等の能動的学修を、より効果的なものとするため少人数教育を実施します。</p> <p>○授業科目ごとの学修成果の評価は、シラバスに提示している方法によって厳正に実施します。ディプロマポリシーの到達度は、GPAを活用して評価します。GPAは表彰等における基礎資料とします。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <p>○教学の理念のもと、豊かな人間性の涵養に努め、保育や教育等について専門的に学びたいという意欲のある人</p> <p>○保育や教育等に関する教育課程を学修するために必要な、基礎的な知識・技能とともに、思考力、判断力、表現力、協調性および主体的に学ぶ態度を有している人</p> <p>○保育や教育等に関する専門的能力を身につけた保育者・教育者となり、社会に貢献したいという願いを持っている人</p>

<p>学部等名 国際教養学部国際教養学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2020/06/gakusoku_01_2020.pdf）</p>
<p>（概要）</p> <p>国際教養学部は、グローバル社会で求められる知識力、情操力、意思力、情報発信力、行動力から成る統合的資質・能力である「国際教養」を備えた人材の育成を目的とする。</p> <p>国際教養学科は、高い英語と日本語の統合的コミュニケーション能力に基づいて、地域から世界に発信し、地域および国際舞台で活躍できる企業人・社会人を育成することを目標とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <p>地域に根差したグローバル人材として、語学力、知識・技能を身につけ、健全で優れた人格と国際感覚を養います。所定の単位を修得した学生に学士（国際教養）を授与します。</p> <p><知識・理解></p> <p>日本と世界の文化や歴史に関する知識を有し、自国・他国の行動様式、考え方の基盤となる文化的背景を理解している。そして、英語の言語学的知識を有し、状況に応じた言語の使用方法を理解している。また、ビジネス分野に関する基礎的知識を有する。</p> <p><思考・問題解決能力></p> <p>地域の課題をグローバルな視点から考え、解決できる。</p>

<p><技能> 日本語もしくは英語を用い、様々な文化的背景を持つ人々と円滑にコミュニケーションをとり、また自分の考えをプレゼンテーションすることができる。</p> <p><態度> 多様な文化を理解し、尊重することができる。また、他者と協力して課題に取り組み、その解決に向けて努力を継続できる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教養教育科目では、地域発のグローバル人材に求められる幅広い知識・教養と豊かな人間性を養うため、人文科学、自然科学、社会科学、外国語に関する科目を配置しています。 ○専門教育では、2年次から「英語プロフェッショナル・コース」「地域発ビジネス・コース」「日本探究コース」の3つのコースに分かれて学修します。1年次は、国際教養基幹科目、英語共通科目、IT共通科目、コース選択のために配置されている基礎科目を学修します。 ○海外留学、フィールドワーク、インターンシップ等を通して、実践力を養う科目も開設しています。
<p>入学者の受入れに関する方針（本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/policy.html#tab3）</p>
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○開かれた心で他者の意見に耳を傾けることができる人 ○国や社会を超えて、あらゆる文化的背景を持つ人々とコミュニケーションが取れるようになりたい人 ○日本及び諸外国の文化・社会に関する知識を身につけたい人 ○英語の言語的知識と運用能力を身につけたい人 ○ビジネスに関する知識を身につけて地域社会に貢献できるようになりたい人

②教育研究上の基本組織に関すること

<p>公表方法：本学ホームページにおいて公表 https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html</p>
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
現代生活学部	—	6人	8人	3人	4人	人	21人
子ども学部	—	5人	4人	4人	3人	人	16人
国際教養学部	—	4人	5人	1人	人	人	10人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
人			35人				35人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>「中国学園大学ファカルティ・ディベロップメント委員会」を中心として、ファカルティ・ディベロップメント（FD）を組織的に推進する体制を整えてある。</p> <p><実施内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員相互の授業参観：年に2回（前・後期各1回）、それぞれ2週間の授業公開期間を設けている。この期間、原則として本学全教員の授業が公開される。教員は空いている時間に自由に他の教員の授業を見学できる。互いに授業を参観し、感想や問題点についてレポートする。 ・授業方法の改善等についてのFD研修会：学内教員または外部講師により、授業改善・カリキュラム改善等の研修会を年2～3回実施する。 ・授業評価アンケート：学生にアンケート用紙を配布して、記入後回収し統計的に処理する。自由記述欄も設け、学生の意見を聴取する。 ・卒業生アンケート：新たに卒業した学生に対し、8月頃往復葉書を用いて授業、資格等についてのアンケートを実施する。 							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
現代生活学部	80人	40人	50.0%	328人	182人	55.5%	4人	2人
子ども学部	100人	96人	96.0%	350人	374人	106.9%	5人	1人
国際教養学部	50人	42人	84.0%	270人	119人	44.1%	5人	1人
合計	230人	178人	77.4%	948人	675人	71.2%	14人	4人

(備考) 平成31年度より入学定員変更
 ・子ども学部子ども学科：入学定員70人→100人 編入学定員(3年次)10人→5人
 ・国際教養学部国際教養学科：入学定員80人→50人

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
現代生活学部	57人 (100%)	0人 (0%)	55人 (96.5%)	2人 (3.5%)
子ども学部	80人 (100%)	4人 (5.0%)	71人 (88.8%)	5人 (6.2%)
国際教養学部	21人 (100%)	0人 (0%)	19人 (90.5%)	2人 (9.5%)
合計	158人 (100%)	4人 (2.5%)	145人 (91.8%)	9人 (5.7%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)
 進学先：中国学園大学大学院、国立大学専攻科
 就職先：地方公共団体、公私立保育所・幼稚園・こども園・小学校、医療法人、社会福祉法人、金融・流通・運輸関係企業等

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学では全ての授業科目についてシラバスを作成し、学生への利便性を考慮し、シラバスのWeb化を実施している。</p> <p>シラバスの内容は、「授業の概要」「到達目標」「年間授業計画」「評価の方法」「受講の心得」「授業外学修」「使用テキスト」「参考書」から構成される。</p> <p>シラバスの作成にあたっては、「シラバス作成の手引き」を全教員へ配付し、記載内容・記載方法を詳細に示している。各教員より提出されたシラバス原稿は、シラバス整備のガイドラインに基づき、各学部・研究科からなる教育課程委員会及び教務課において点検を行い、記載上の留意事項に照らして不備や欠陥が認められる場合は、修正を依頼する。</p> <p>また、学期途中で修正事項があった場合は、教員からの連絡に基づき教務課で修正すると共に学生へ周知する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業科目の学修成果の評価方法については、授業担当教員が科目（教養、専門、資格関連）の特性と、授業形態（講義、演習、実験、実習、実技）に応じ、適切な評価方法（筆記試験、レポート、実技試験、小テスト、授業参加度等）を組み合わせ、総合的に判断している。この成績評価の方法・基準は、シラバスに具体的に明記し、各授業科目の学修成果の評価を行い、これに基づき、単位認定又は履修の認定を行っている。</p> <p>卒業認定は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び修得単位数を踏まえて行っている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
現代生活学部	人間栄養学科	125 単位	有 無	50 単位
子ども学部	子ども学科	125 単位	有 無	50 単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有 無	46 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.cjc.ac.jp/campuslife/campusmap.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること
(中国学園大学)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
現代生活 学部	人間栄養 入学時	500,000円	250,000円	580,000円	施設設備費(300,000円) 教育充実費(200,000円) 実験実習費(80,000円)
	人間栄養 2年次	500,000円	0円	519,000円	施設設備費(300,000円) 教育充実費(200,000円) 実験実習費(19,000円)
	人間栄養 3年次	500,000円	0円	555,000円	施設設備費(300,000円) 教育充実費(200,000円) 実験実習費(55,000円)
	人間栄養 4年次	500,000円	0円	540,000円	施設設備費(300,000円) 教育充実費(200,000円) 実験実習費(40,000円)
子ども 学部	子ども	500,000円	250,000円	400,000円	施設設備費(200,000円) 教育充実費(200,000円)
国際教養 学部	国際教養	640,000円	250,000円	400,000円	施設設備費(200,000円) 教育充実費(200,000円)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、従前から、経済的に困窮している学生を含め、学業成績が優秀な学生に対して授業料相当額又は、授業料相当額の半額を支給する奨学金制度を実施している。 入学生では、成績優秀者に加え、地方からの進学(沖縄県等の遠隔地)、卒業生の子、兄弟姉妹が本学に在籍している学生を対象としたもの、高等学校においてスポーツで優秀な成績を収めた学生を対象としたもの等、奨学制度を導入して手厚い支援を実施している。 障がいのある学生への支援については、学生本人の意志決定を重視し、障がい学生修学支援委員会で支援内容を決定して実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、一人ひとりの学生と向き合い、それぞれの学生が希望する進路につけるよう、各学部・学科及び就職支援センターが連携して、きめ細かいバックアップ体制で支援を行っている。 就職支援センターでは、進路選択に関する面談、求人情報の提供、インターンシップ参加への助言や就職ガイダンス、プチセミナーの開催などを実施している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室では、学生が心身ともに健康な学生生活を送れるように健康診断の実施及び事後措置、健康相談と応急処置、感染症の予防等を実施している。 学生相談室では、専門カウンセラーが学生生活の中で起こる問題について面談に応じている。 また、学生が健康的で豊かな学生生活を送れるように、健康に関する内容等の講演会を支援セミナーとして実施している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.cjc.ac.jp/about/info_disclosure.html
--